



第37号

発行・編集：福祉のネットワーク永山

事務局：(社福) 多摩市社会福祉協議会

TEL：042-373-5616

令和2年8月

福祉のネットワーク永山だより

～誰もが安心して暮らせる地域を目指して～

福祉のネットワーク永山主催事業 再開状況

○再開している事業

- ・福祉のネットワーク永山体操サロン（会場を諏訪福祉館に変更し、7/8より再開）
- ・東永山複合施設ほか市内の公共施設（定員数を制限し6/16より再開）
- ・瓜生小地区防災連絡会（8/1より再開）

○中止している事業

- ・福祉のネットワーク永山定例会（9月より再開予定）
- ・まち歩き（9/8より再開。グルメシティ前10時集合。）
*今年度は公共交通機関を使わないコースに変更。バス旅は中止
- ・さんぽ会（今年度は中止）
- ・見守りウォーキング：毎月第2・4月曜日 15時30分集合（9月より再開予定）
瓜生地区：グルメシティ前（永山商店街内）
永山地区：グリナード永山2Fマクドナルド前
- ・永山小・多摩永山中地区防災連絡会（未定）

新型コロナウイルスの感染状況により再開時期が変更になる可能性があります。

福祉亭活動再開

- ★6月より時間短縮で活動再開
- ★7月現在、時間短縮で活動継続、催事は3密を避ける一部を除きほぼ休止

福祉亭は2003年春から、地域のボランティアの皆さまのご協力を得ながら、食を中心としたコミュニケーションの場を提供してきました。コロナ前の状態にはすぐには戻りませんが、「助け合う・支え合うコミュニティ」の再生を目指して日々の活動を行ってまいります。



代表の寺田さん

コロナ禍でのサロン活動

瓜生サロンでは、3月から活動休止していますが、緊急事態宣言が出た翌日、4月8日より、ランチのメンバーで交換ノートを始めました。

食に関すること、というテーマ設定はありましたが、幼いころの思い出から、簡単レシピまで、幅広い書き込みがあり、お互いを知る機会になったようです。「コロナ禍でもできること」を考えてみるのもいいですね。



変化する交流生活

中部地域包括支援センター
中部高齢者見守り相談窓口
に聞きました！

“ゆるくつながろう”が合言葉の中部高齢者見守り相談窓口の地域交流スペースが4月10日から閉鎖されていましたが、6月22日から再開されました。しかし、コロナ禍では以前の常識が非常識となり、その有り様が変わっています。



「自分の命は自分で守る！」

高齢者見守り相談窓口にある地域交流スペースは再開後、入室者が3人と制限され、その時間も10分以内とされました。話し相手との間にはビニールが張られ、壁際の黒板には「自分の命は自分で守る！」とチョークで書かれています。入室者は検温し、住所氏名と連絡先を名簿に記入します。新型コロナウイルス感染者が発生した場合に備えての措置です。

「日頃のつながり」があったからこそ声を掛け合えた

この間に高齢者見守り相談窓口は初めての試みとして「ゆるくつながろうだより」特別号という広報紙を発行しています。その中で見守り相談窓口の早田さんと見守り協力員さんの電話でのお話を載せています。5月頃、見守り協力員さんが早田さんにこう語りました。「地域活動がコロナウイルスの影響でできないことは残念だけど、この地域活動で知り合った方々と、電話で『元気？大丈夫？』と声を掛け合っています」というものです。

それを聞いて早田さんは「地域活動から個人単位でのつながりに変化している。今後は、新しい生活様式への取り組みや発想の転換が必要になると思った」と書いています。

ゆるく つながろうだより

突然ですが、皆さん お元気でしょうか？

見守り相談窓口、早田と様です。皆さん、お変わりないでしょうか？
新型コロナウイルスは、日本だけでなく世界中に拡大し感染を続けています。
「感染は避けよう、ソーシャル・ディスタンス（適切な距離）を保ちよう」など、これまで聞き慣れた言葉が、ニュースやインターネットで流れています。見守り相談窓口も、訪問や利用などの感染対策が、一層厳格に行われています。
様々なニュースが多い中、今見守り協力員さんから嬉しいお話を伺ったので、皆さんと共有したいと思い、お便りを発行しております。
5月頃、見守り協力員さんと電話でお話を伺ったのです。「最近、地域での集まりはほとんどなくなり、お気よく質問しました。すると、見守り協力員さんから、思いがけない言葉を聞きました。「早田さん、地域活動がコロナウイルスの影響でできないことは残念だけど、この地域活動で知り合った方々と、電話で元気？大丈夫？と声を掛け合っています。」という内容でした。
正直驚きました。地域活動から個人単位の繋がりに「変化」しているのです。今回のお話を伺い、早田と様は、見守り相談窓口として地域活動に貢献できていることでも嬉しい瞬間でした。また、心あたらない疑問にちなりまして、ありがとうございます。
今後は、新しい生活様式への取り組みや発想の転換が必要になるとも思っています。コロナウイルスの感染が広がったことで、入居者の繋がりが弱体化は避けられない状況にあります。皆さんとゆるく繋がります。今後も宜しくお願いします。

- 【熱中症に気を付けましょう！】
 - ・ごまめに水分・塩分補給
 - ・涼風、涼風に気を配ろう
 - ・エアコン・扇風機の活用
- ※エアコンの節電の目安は、室温を26℃前後に保つこと、室温が28℃以上になると、体に負担がかかります。



新しい方法でのつながりを目指して

何よりも感染して命に係わる事態を避けることが優先し、ステイホームが求められましたが、一方で身体がフレイル（虚弱）になったり認知症が進んだり、さらには心が病んだりした人が少なくないと言われます。今は感染防止策を徹底しながら戸外でも活動することが望まれます。元の生活に戻ることが難しいなかで新しい生活を模索する必要があります。

社会は在宅ワークが増えていますが、団地の住民も知り合った個人同士が電話やメールで気かけ合うのも今後の有り様です。高齢者見守り相談窓口はそうした人たちをサポートする場として役割が高まっています。